

未明。闇は、夜明け前がいちばん深い。

チャレンジ!
—若き福大OB・OG、その道の途中から—

笑いへの志。

落語家 立川笑志さん

年頭の辞

「七隈の杜」でもてなす
上質の文化と歴史的風景

応える、答える!

No.8 修学・履修編

あの日、あの時。
ホームカミングデー

拡張・発展から成熟・安定へ
20万人の卒業生に、
福岡大学の良き未来を誓う。

夢へ手を伸ばす日々—福大生たちのグラフィティ
学生ボランティア

今、自分たちにできること。
今、自分たちがしたいこと。
その精一杯を、人へ地域へ。

ボランティアって意識が
心のどこかにあるうちは
まだまだ未熟だねって、
先輩にやさしく言われた。



FUKUOKA
UNIVERSITY
KEYWORD

福岡大学
「なにこれ?キーワード」

情報

キャンパスIT化計画

福岡大学では創立75周年を迎えるにあたり、新しい大学像を求めてさまざまな改革を進めています。これらの改革を推進するインフラ(基盤)として重要なのがキャンパスの情報化です。中でも皆さんにいちばん身近で、他大学からも注目を集めているのが「FUポータル」です。ポータルとは、利用する人に応じて、本学で必要となる情報を簡単にいつでもどこからでも確認し、取得することができるWeb上の玄関口です。本学では皆さん一人ひとりに専用のポータルページが用意されています。ここでは授業に関する情報、就職・進路支援、学生支援サービスなどが受けられるほか、個人向けの連絡にも利用します。また新年度(4月)からはWeb履修登録やWebシラバスを導入します。その他、図書館の「MYポータル」機能によるオンラインサービスなど実施中のものや計画中的のものも多彩です。福岡大学の情報基盤整備は西日本の大学でも屈指のスケールと充実度です。

本誌のタイトル

FDは、このキャンパスで在学生の皆さん一人ひとりが、美しく
素敵な夢 (FINE DREAM) を育んでくれるように
との願いを込めるとともに、あわせてFUKUOKA DAIGAKU
の頭文字を構成し、愛称として名付けられています。

【建学の精神】
思想堅実・穩健中正・質実剛健・積極進取

【教育研究の理念】
「人材教育」と「人間教育」の共存
「学部教育」と「総合教育」の共存
「地域性」と「国際性」の共存

CONTENTS

- 2 年頭の辞
「七隈の杜」でもてなす
上質の文化と歴史的風景
- 4 No.8 修学・履修編
「応える、答える！」
- 6 誌上特別講座
「これならわかる！ 研究推進部の研究」
◎17世紀ローマ美術の古典主義美学に
ついての美証的研究
◎発見科学と統計科学の融合による
新しい消費者行動のデータ解析手法の開発
- 8 第8回福岡大学技術交流会
産学官連携で大学が変わる、
地域が変わる。
- 10 チャレンジ！ 若き福大OB・OG その道の途中から
笑いへの志。
落語家 立川笑志さん
- 13 OB・OGメッセージ
就職のための私のチャレンジ
会社の雰囲気、街の温かさ、
働きながら陸上を続けられること。
すべての理想がかなった。
- 14 夢へ手を伸ばす日々 福大生たちのグラフィティ①
学生ボランティア
今、自分たちができること。
今、自分たちがしたいこと。
その精一杯を、人へ地域へ。



- 16 夢へ手を伸ばす日々 福大生たちのグラフィティ②
学生ボランティア
ボランティアアッて意識が
心のどこかにあるうちは
まだまだ未熟だねって、
先輩にやさしく言われた。
- 18 ハート・ダイアリー 第8回
「春休みは今までの自分をリフレッシュ」
「ヨラムヘルシーモーニングレシビ」
「野菜たっぷりチーズ鍋焼うどん」
- 20 <TOPICS> 図書館便り
貴重書コレクション
新刊本紹介 福大生に「この二冊！」
- 22 あの日、あの時。
ホームカミングデー
拡張・発展から成熟・安定へ
20万人の卒業生に、
福岡大学の輝く未来を誓う。
「ヨラム」2枚の写真から 福岡大学の今、あの頃
イベントスケジュール
- 24 共通教育科目を学ぼう！ Vol.4
学生との懇談会・各種アンケート
- 26 学内トピックス
FSP 福大生ステップアッププログラム、元気に進行中
しっかりと受け止めてくれる人がいる。
「ゆとりあ」は心のキャッチボールの場
福岡大学法科大学院の快挙
新司法試験合格者は九州・四国でトップ
- 30 なくなくま通信
行く・見る・歩く・利用する
くるくる福大キャンパス
健康管理センターと
オリオンホール
- 32



表紙の言葉

「未明。闇は、夜明け前がいちばん深い。」

君が今、深く悩んでいるなら、たとえば失った恋に涙して
いるなら、この言葉を覚えてほしい。夜の闇は、夜明け前
がいちばん深い。なにも考えられないほど絶望の底に
沈んでいるなら、もう闇は終わる。やがて周囲は濃い紫
色になり、やがてその紫には朱がさし、そして曙になる。
東雲になる。そして朝日がのぼる。未明のとき、君が明
るさを失わなければ、明日を信じていれば、冬は終わる。
そして春が来る。



AA- 学校法人福岡大学が「AA-」の格付けを維持

学校法人福岡大学は、外部評価の一環として、株式会社格付投資情報センター (R&I) から発行体格付け「AA-」(ダブルAマイナス)を2004年から取得・維持しています。これは、21段階ある格付けの上から4番目という高い評価であり、本学の歴史や伝統、健全な財政運営に基づいた教育研究・医療におけるさまざまな取り組みが総合的に高く評価されたものです。本学は、この高い評価を維持・向上させるため、今後も教学と経営の一層の充実と努力、教育力の高い魅力ある学園づくりを目指します。



このマークは、大学基準協会が大学基準に適合していると認定した大学に対して与えるものです。

Fukuoka University students Step up Program



Fukuoka University 2009
福岡大学創立75周年記念事業

「2006年度学生チャレンジプロジェクト」成果報告

本学では創立75周年(2009年)記念事業の一環として、「学生チャレンジプロジェクト」を実施しています。これは、学生が自主的に創造力と行動力を発揮できる機会を新たに作ることを目的とし、学生(個人またはグループ)が自由な発想で企画した独自のプロジェクトを、本学が活動資金面などで支援するもので、2006年度は4件が採択されました。

昨年12月9日に行われた成果報告会では、各代表が中心となってプロジェクトの活動内容や成果について発表しました。来場者から活発な質問、アドバイスが行われ、プロジェクトだけでなく今後の学生生活においても参考になる点が多かったようです。各グループともこのプロジェクトを通して学内外を問わず交流することにより、物事に対するさまざまな捉え方を学ぶなど、活動の場を広げています。

2006年度採択プロジェクト



『アジアの発展途上国における環境問題と観光政策に関する調査研究—ネパールをモデルケースとして—』
経済学部産業経済学科3年次生
ボウデル サントシュさん 他7人



『「和(なごみ)」前にカフェをデザインしよう』
工学部建築学科3年次生
井口 かおりさん 他15人



『外国人留学生のための学生ツアーコンダクター実施予備調査』
法学部経営法学科2年次生
中島 隆弘さん 他7人



『コミュニティ活性化のための地域通貨実現に向けた調査研究』
経済学部経済学科3年次生
長谷川 宗典さん 他6人

FSP専用アドレス

<http://www.fukuoka-u.ac.jp/fsp/index.html>

周年記念を訪ねて Vol.5

60周年記念

60周年記念館(ヘリオスプラザ)

本学創立60周年記念事業の一環として1996年に完成した鉄筋6階建ての建物。総面積は7,057m²、石と木とガラスが調和した美しい建物です。建物内にはヘリオスホール、音楽練習室、展示ギャラリー、書店(ヘリオス文庫)、情報プラザ、学生情報センター(ナジック)、ロビーなどがあり、皆さんの学生生活を支援する場としてはもちろん、憩いや語らいの場として多目的に活用されています。



「七隈の杜」でもてなす上質の文化と歴史的風景

たとえ、百年かけても確かなものとしていきたい

学長 山下宏幸



福岡大学 学長
山下 宏幸 [工学博士]
Hiroyuki Yamashita

明けましておめでとうございませう。皆さまのご多幸と福岡大学のさらなる発展を祈念し、新春のお慶びを申し上げます。

さて、福岡大学は、2年後に迎える創立75周年記念の祝賀に向け、現在、さまざまな事業を企画し、次々と実行に移しているところです。

あらためて本学73年の歴史を振り返ってみますと、戦前・戦後の混乱期や60年・70年安保、さらには大学紛争など、本学において幾多の試練の時期がありました。そのような中、学生、卒業生、教職員が一丸となつて学園の平和を守り、今日の伝統や学風を築き上げてきました。今後、これらの歴史と財産を受け継ぎ、さらなる発展を目指して努力しなければならぬと、決意を新たにしているところです。

そのためには、大学の使命である

教育研究と医療活動の向上に努めることはもちろんのこと、福岡大学にふさわしい文化と歴史的風景が漂う「七隈の杜」を、5年、10年そして100年かけてでも創造していかなければなりません。それは、訪れる人々に心の安らぎを与える緑豊かな思索の場であることを想い描いています。

文化

具体的には、文化、歴史および環境の3つを関連付けて、本学のイメージ、つまり福岡大学の形を確かなものにするこゝとだと考えています。

「ワン・クリック・グローバル・シーション」の手法が、さまざまな面で世界同質化をもたらしています。では、人間の生活に密着した歴史・文化・環境などを同質化することは可能でしょうか。それは無理といえます。

大学文化は学業の余剰で育成される副産物であるように理解されがちだったからだと思います。ちなみに、世界で名の知れた大学のほとんどは学業以外のものをたくさん提供しています。これを表す最適の言葉は「大学文化」であり、この付加価値の付いた文化は通常、芸術、スポーツ、演劇、音楽、文学を通してもたらされます。

大学が21世紀に存続し発展していくためには、卒業生や地域住民の理解や協力が不可欠であり、文化は、社会で尊敬される唯一の大学固有の財産であると強く感じます。

歴史

人間の五官は、緩やかな変化を認識することには適合していません。例えば、人口の減少、自然環境の変化、治安の悪化、日本文化の喪失など、さまざまな課題が切迫しているにもかかわらず、われわれはそれらの問題に機敏な対応を示すことなく日々を送っているようです。同様に、大学を取り巻く厳しい環境の変化に対しても、まだ大丈夫だろうという受け止め方で、機敏に対応していません。それでは、どうすればよいのでしょうか。それは、歴史から学ぶこと、ある

なぜなら、情報はITによりグローバルに動くにしても、人間の生活は大地にへばりついていてそうはいかないからです。

従つて、大学の優れた情報を外部へ発信するには、単なる話題性だけでなく、明確な大学の文化を伴っていることが重要だと考えます。大学文化は、大学において創り出され、受け継がれてきた学風・伝統・慣習など、組織としての価値観あるいはアイデンティティーととらえています。さらに、大学人および卒業生が物事の判断や行動をするときの心の支えとなる働きがあるとさえ思っています。

もちろん、福岡大学に大学文化がなかったわけではありません。しかし、卒業生や地域に広がりを持った確かなものにはなっていないかのように感じます。その背景には、健康で元気な町づくりを標榜し、福岡大学病院が先頭に立つて健康医療サービスを提供することだと強く思っています。本学は、ワンキャンパスの総合大学ですから、その優位性を生かしてさまざまな学問分野がさまざまな角度から病院を支援していけば実現できます。

ちなみに欧米では、大学の周辺一帯に大学文化圏が形成され、地域は大学の在ることを誇りに思い、大学も地域にさまざまな貢献をするという図式が出来上がっています。このように今後、福岡大学は、地域と一体化した町づくりに深くかかわるべきであり、それが本学の教育研究および医療活動を活性化の一助となるように感じます。素晴らしい環境をつくることは、逆にその環境が人間を育ててくれるのだということを忘れてはなりません。

終わりに、私は福岡大学の発展を支える最大のエネルギーは「福岡大学人の力」だと信じています。何よりも福岡大学を愛する心、分け隔てなく人を迎え入れる寛容さ、時代を切り拓く積極進取の精神が、他に類例を見ない福岡大学独自の歴史と文化を創っていくのだと心から信じています。

環境

文化の拠点としての緑豊かなキャンパス「七隈の杜」で、訪れる人々の気持ちを引きつけます。同時に、

いは過去の資料を参考にする必要だと思えます。従つて、私たちは遠い記憶がよみがえってくる歴史的風景を掘り起こし、福岡大学の歴史、地域の歴史を確かなものとして定着させ、それらを皆で共有しなければならぬと考えています。

そのためには、例えば、本学の歴史資料室（ヘリオスプラザ5階）をもっと多くの人が見やすいところへ移設・充実するなど工夫し、歴史に学ぶ環境を整えなければなりません。

また、七隈の地は、かつては黒田藩の鷹狩の地であったと言われています。「七隈」「干隈」「島廻り橋」「堤」「城南」「草ヶ江」「荒江」の地名から、七隈周辺は入り江、溜池や湿地が多い地帯であったようです。このような湿地帯に、魚やそれを餌とする鳥が増え、鷹が集まってきたことも想像できます。

このように、本学および地域の明確な歴史を共有すれば、帰属意識や誇りがおのずと醸成されていくに違いありません。

応える、答える!

No.8 修学・履修編

皆さんから寄せられる質問や意見に福岡大学がしっかりと「応える」「答える」シリーズ。今回は新年度から大きく変わる、皆さんの大学生活の中心でもある、修学や履修について特集します。



Q. 19年度から修学関係で大きな変更があると聞いていますが?

A. 今年3月からWeb履修登録などが始まります。

これまで本学では各分野にわたって情報化を推進してきましたが、今年から新しい教務関連のシステムが本格的に稼働します。すでに学生ポータルを利用していると思いますが、皆さんの修学上必須の手続きである履修科目の登録や、そのために必要なシラバスの参照、さらには成績の確認や授業に関する先生方からの連絡などがこの春からポータルシステムを通して利用できるようになります。

今年3月から履修科目の登録は、これまでの「履修届」を提出するのではなく、パソコンの画面上に表示される履修可能な科目の中からクリックして選択するだけで登録できるようになります。インターネット環境があれば、自宅から登録することも可能です。詳細は「学修ガイド」や「Web履修登録の手引」を参照してください。

Q. 他にも19年度から変わることがありますか?

A. 皆さんの成績通知書に、成績評価指標としてGPAを新たに付記します。

GPA (Grade Point Average)は、左に示した算出式で計算されます。履修科目の評点に単位数を加味した加重平均値です。大学での履修が、単に卒業単位を取得するのみではなく、より真剣に学ぶことにより大学教育を実質化し、大学教育の質を保証するシステムの一端でもあります。これからは途中で受講をやめたり、試験を放棄したりするとGPA

Aが低下します。従って、学生の皆さんには履修に対する責任が求められることとなります。

今後、このGPAは特待生など各種選考の際に活用されることとなります。将来的には単位数のみではなく、一定以上のGPAを卒業要件にすることなども考えられます。

授業の内容が期待したものと違ってした場合などには、所定の期間内に申し出れば、2科目8単位以内に留ってその科目の履修登録を撤回できるようにします。しかし、むやみに撤回すると、卒業や進級に必要な単位数が不足する場合もあります。慎重な対応が必要ですよ。

●成績評語とGP評点

素点範囲	現行	GPA導入後	
	成績評語	成績評語	GP評点
100~90	優	秀 ^(注)	4.0
89~80		優	3.0
79~70	良	良	2.0
69~60	可	可	1.0
59以下	不可	不可	0.0
試験放棄	放棄	放棄	0.0

(注) 100~90点の成績評語「秀」の表記は平成19年度入学生から、在学生については「優」のまま。

●GPAの算出

$$GPA = \frac{4 \times (\text{秀の単位数}) + 3 \times (\text{優の単位数}) + 2 \times (\text{良の単位数}) + 1 \times (\text{可の単位数})}{\text{算入対象科目の総単位数}}$$

- 不可、放棄の科目の単位数は分母に含まれる。
- 認定単位は算定の対象としない。
- 当該セメスターのGPAと当該セメスターまでに履修した科目のGPAを算出。
- 卒業要件にかかわる履修科目のGPAと、課程科目を含む全履修科目のGPAを算出。
- 不合格科目を再履修した場合、セメスター毎のGPAは再計算しないが、通算のGPAは再履修したものに置き換える。

Q. 福岡大学のセメスターは、これまでとどう違うのですか?

A. 本学独自のセメスターは、後期に受講する科目の登録修正を可能にするものです。

セメスターの語源「セメトリス」は、「6カ月」を意味します。本来のセメスター制度は半年の学期毎の区切りで学修を進めていくものです。本学では、当面はこれまで通り年次ごとのカリキュラム編成を行うため、本学独自の「セメスター制度」といえます。医学部医学科以外は、特定の科目を除いて通年科目はなくなり、ほとんどの授業科目がそれぞれ半期ごとに完結することになります。

一年間に履修する科目をあらかじめ前期授業開始前に登録することもこれまでと同じですが、後期の科目については、前期の学修成果を確認して、すでに登録している履修科目を修正することができるようになります。これによって半期ごとに各自の目標に応じた学修が可能になります。

Q. 4月から授業への出席管理システムも動きだすそうですね?

A. IC学生証を使って、ほぼ全ての教室などで出席をとることができるようになります。

新年度から導入する出席管理システムは、学生の皆さんが自ら生活管理を行い、着実に学修を進めるためのものです。また、多くの在学生を抱える大学では困難な不安や悩みなどを持ち欠席しがちな学生に対する修学指導や生活指導に活かしていきます。もちろん、先生方によっては、この情報を成績評価に利用されることもあります。出席確認は、授業の開始時刻までに教室内のセンサーにIC学生証をかざすだけです。出欠だけでなく、どれくらい遅刻したかも記録されます。センサーに読み取らせやすいように、皆さんにはカードケースとネックストラップを配付することなども検討しています。

出席管理データはポータルから確認できます。皆さんの学修の端を示すものとして、父母懇談会などでご父母にもお知らせします。これは、学費負担者に対する本学の責任です。いずれにしても、大学での学修はまず講義に積極的に参加することから始まります。この出席管理は、GPAの付記と併せて学生の皆さんが社会から求められる大学生としての学修を確実に遂行していただくための環境整備であり、福岡大学としての社会的責務であると考えています。



教務部長 今野 孝 (商学部教授)

自ら意識的に学ぶこと。これが原点です。

90分の授業が終わり席を立つ前に、ちょっと授業を振り返ってその要点を確認してみてください。短い時間で容易ではありませんが、もしも、ほとんど思い浮かばなかったとしたら、あなたは出席はしていても、実際は意味のない時間を過ごしてしまったこととなります。筋も追わずに、映画館で画面をぼんやり眺めていたのと同じです。でも、大学の授業には映画の観覧料より遥かに高いコストと皆さんの自身の貴重な時間とが費やされていることを忘れてはいけません。

本学では平成19年度から



らIC学生証を使った出席管理システムが稼働しますが、「出席をとるから授業に出る」というのでは意味のない時間を過ごすこととなります。「この授業で何を学ぶのか?」あくまでも主体的・意識的に授業を受けて、自ら学ぶ姿勢が原点です。この出席管理システムは、皆さんの自己管理を支援するためのものでもあります。

福岡大学では、今後も学生の皆さんのための教育システムや教育環境をさらに整備し、21世紀にふさわしい大学教育の実現を目指します。

これならわかる！ 研究推進部の研究

もっと身近に、もっとわかりやすく。研究推進部の研究活動を紹介するシリーズ。今回は「17世紀ローマ美術の古典主義美学についての実証的研究」と「発見科学と統計科学の融合による新しい消費者行動のデータ解析手法の開発」を紹介します。

Case1

17世紀ローマ美術の古典主義美学についての実証的研究

バロック美術の作品分析を通し 西洋美術の本質を考える



▲ドメニコ・トレンティの壁画が対峙するサンタンドレア祈禱所



チェリオの丘にある▶サンタンドレア祈禱所は初期バロックの隠れた名所である。(内部は上の写真)

16世紀、宗教改革によって生まれた新教各派は宗教美術に否定的でしたが、ローマカトリック教会は伝統を重視し、絵画や彫刻、建築などの視覚芸術を積極的に利用してカトリック信仰の優越性を強く印象付けようとしてきました。

教皇庁の所在地ローマでは、この時期、多くの聖堂が新築・改築されて景観の整備が進み、新教各国からも多くの芸術家を惹きつけました。現在のサンピエトロ

大聖堂などはこの時代の建造物です。

バロックの時代にはまた、古代彫刻やイタリヤ・ルネサンスの傑作を模範とする「理想化された自然主義美術」の優越性が強調され、そうした主張は「古典主義美学」として公式化されました。この研究は17世紀ローマにおける同美術の特質を代表的な画家の作品に即して検証し、西欧美術伝統の本質に迫ろうとするものです。

研究早わかりチャート

○17世紀ローマ・バロック絵画の古典主義的側面と現実的・写実的側面の関係について考察する。

○バロック時代のカトリック教会は壮麗で威圧的な美術だけでなく、現実的で説得力を持つ美術も推奨した。古代文化考証学もこの時期に発展したが、そうした実証的姿勢が美術に反映された有様を確認する。

○ローマで活躍した画家ドメニコ・トレンティと並び称された。その作品も同時代の文献や他の画家たちの作品も参照しながら検討し、当時の人々にとどのように受け入れられたか検証する。



研究代表者 **浦上 雅司**
(人文学部教授)
1986年東京大学大学院人文科学研究科美術史学専攻博士課程満期退学
1996年から福岡大学人文学部文化学科教授
専門:美学(含芸術諸学)・美術史

早わかりポイント

1 この研究をなぜ始めた？

大学時代からイタリア美術、特にルネサンス絵画に関心をもちルネサンスから19世紀に至る西欧美術の根底にある古典主義の系譜に注目した。



早わかりポイント

2 この研究のユニークポイント

古典主義美学が完成された17世紀のローマ絵画を実証的に検討し、同美術の特質を解明しようとする点。

早わかりポイント

3 この研究はなに役立つ？

西洋美術の本質をよりよく知るのはもちろん、現代美術の特質を理解するのにも役立つ。現代美術も、反発するにせよ尊重するにせよ、古典主義の伝統を参照している。



Case2

発見科学と統計科学の融合による新しい消費者行動のデータ解析手法の開発

消費者の好みやライフスタイル、街に対するイメージまでを読み取れるような手法を



▲街づくり、街の魅力づくりに役立つデータ解析手法の開発を



▶調査現場での打ち合わせ風景

今、消費者の行動は大変読みにくくなっています。モーターゼーションの進展による郊外大型店の出現は「中心市街」を変化させました。

一方で消費者一人ひとりのニーズの多様化がさらに進み、その行動はますます複雑になっており、今までの枠組みで消費者行動を捉えることができなくなっています。しかし、消費者に関するデータはICチップカードなどの発達により、従来では考えられないほど膨大に入手

できるようになりました。

このデータの山から複雑多岐な現代の消費行動を把握できないだろうか。言い換えれば消費者の心理・嗜好まで解析できる手法はないだろうか。この研究の目的はデータマイニング(Data Mining)により、新しい枠組みを開発すること。消費者の好みやライフスタイル、街に対するイメージまでも分析し、シヨップ作りやブランド開発、そして街づくりに役立つことです。

早わかりポイント

1 この研究をなぜ始めた？

齋藤参郎先生が所長をされている福岡大学都市空間情報行動研究所では、先端の都市研究を展開している。この研究は、その研究活動の一環としてスタートした。



早わかりポイント

2 この研究のユニークポイント

膨大なデータをマイニングの手法で、地域科学に応用していく。発見科学と統計科学の融合を図る。

早わかりポイント

3 この研究はなに役立つ？

シヨップ作りやブランド開発、そして街づくりに役立つ。



研究代表者 **梶井 昌邦**
(経済学部助教授)
2000年福岡大学大学院経済学研究科経済学専攻博士課程後期修了
2003年から福岡大学経済学部助教授
専門:社会システム工学・経済統計学

研究早わかりチャート

○今、消費者の行動は大変読みにくい。

○一方では、消費者に関するデータはICチップカードなどの発達により、従来では考えられないほど膨大に入手できるようになった。

○この膨大なデータをマイニングの手法で、地域科学に応用していく。膨大なデータから発見した仮説(発見科学)を、統計科学で検証していく。

○街づくりのための、新しい評価枠組みを作る。



福岡大学技術交流会

福岡大学産学官連携グランドコンベンション

- ① 山下学長による開会挨拶
- ② 社団法人首都圏産業活性化協会(TAMA産業活性化協会)事務局長 岡崎英人氏による基調講演
- ③ 展示コーナーでは、本学および企業の研究開発事例・製品等の紹介が行われた
- ④ スポーツ科学部 田中宏暎教授による「運動習慣支援システムの開発」についてのプレゼンテーション
- ⑤ 講演に聴き入る参加者たち



今回のテーマ: 産学官連携で大学が変わる、地域が変わる。

第8回福岡大学技術交流会「福岡大学産学官連携グランドコンベンション」が、昨年12月7日、本学文系センター棟4階第4会議室をメイン会場として開催されました。

当日は山下学長から「会を重ねること、今回で8回目となり。本学は産学官連携に力を入れていますが、本年4月に産学官連携センターを立ち上げて最初の技術交流会となります。地域密着型の企業ニーズ対応の産学官連携に力を入れており、この意味からテーマも『産学官連携で大学が変わる、地域が変わる』と位置づけて開催します」という趣旨の開会挨拶があり、次いで九州経済産業局地域経済部長の餅田祐輔氏からは来賓挨拶があり、「教育と研究に加え、地域の貢献を柱として実行していることが具体的に評価される時代になってきている」と述べられました。基調講演では、社団法人首都圏産業活性化協会(TAMA産業活性化協会)事務局長 岡崎英人氏により、広域連携によって地域産業の活性化を目指すTAMAの概要とシステムの説明が行われました。お話の中で、「補助金を得るためには、

新規性、先進性、事業化性が必要。事務局はプロデューサーであり、ネットワークを拡大していくこと。専門性をもった人材(コーディネーター)が必要。産学連携や産学連携には、経営資源が限られている中小企業の経営者のニーズと先生のシーズの溝を埋めるコーディネーターの役割が大きい。産学官連携は、企業や地域の自治体、市民を巻き込んだ大学全体の取り組みが必要。地域企業への技術指導や地元自治体とタイアップしながら、積極的に大学も踏み込んでいくなど、教育・研究・地域貢献をバランスよく地域をベースにすることで、大学が変わり、地域も変わる」とのアドバイスがありました。

続いて、産学マッチング・プレゼンテーションが行われました。はじめに「ものづくり企業と健康・スポーツ分野の異分野連携」というテーマで、九州計測器(株)技術部長 岩倉弘氏の「アナログ技術を駆使した計測システムの開発」、本学スポーツ科学部 田中宏暎教授の「運動習慣支援システムの開発」のプレゼンテーション、次に「IT企業と電子情報分野」というテーマでシステムラボラトリー(株)代表取締役 外山吉計氏の

「電子認証システム(PKI)の活用」、本学工学部 電子情報工学科 鶴田直之教授の「在宅健康管理システムへのデータマイニングの応用」のプレゼンテーション、最後に「食品バイオ企業と機能性食品の研究」というテーマで、ビジョンバイオ(株)代表取締役社長 塚脇博夫氏の「製品の品質管理に対する先端DNA鑑定技術の応用」、本学薬学部 機器分析学教室 藤岡稔大教授の「食品の機能性とその有効成分の解明」のプレゼンテーションが行われました。

当日は、行政、大学、企業関係者など約150人の参加があり、熱心に聴き入っていました。今回は、本学文系センター棟16階を会場にポスターセッションと交流会も行われ、理、工、医、薬、スポーツ科学部の教員の研究成果発表や企業と共同開発した産学連携の事業化紹介など、30ブースをジャンル別に分けて展示しました。交流会には、学内外約60人が参加し、新たな産学官連携の出会いの場、産学官連携の新しい芽をつくる場として、活発な交流活動を行いました。

成るように

成る(こと)

立川笑志

小学校6年生。少年は教室にしつらえられた舞台上に座っていた。落語の『子ほめ』を演じるつもり。その1年前、友人が落語の『寿限無』を演じるのを見た。あれくらいなら僕にもできるよ。図書館で「こども落語教室」という本を見つけ、練習した。その日は父母も大勢来ていた。12歳の少年がこんな話を懸命に演じた。熊さんが、隠居に世辞の言い方を教わる。「相手の年齢が45歳だと言ったら、45歳にしてはお若い、どう見ても厄(42)そこそこ…」と相手の年齢を若く見積もっておだてることだよ。早速やってみる。40歳の人に隠居に教わったとおり「厄そこそこ…」と叫ぶとやされる。そこで今度は、子どもなら大丈夫だろうと産まれたの赤ん坊を誉めにゆく。「ところでこの赤ん坊はおいくつですか?」「へんなこと聞くなよなあ、今日でお七夜だよ、まだ1つに決まっているだろう。」1つにしちやお若い、どう見ても、ただだ。受けた。大受けだった。落語って面白いな。人を笑わせるって楽しいな。少年の心に、笑いへの志が芽生えた。

少年は中学校に進む。将来への夢がふくらむ。落語家か、放送作家か、アナウンサーか。共通しているのは、人前でしゃべること。人を笑わせ楽しませること。「古典落語全集」を読んで暗記する。当時人気だったラジオ番組にコントを応募して何度も採用される。ラジオネームは「ゆるプリンナー」。アメリカの俳優ユル・プリンナーのもじり。柔道部におじゃまして練習の実況を勝手にやる。「お、今のは一本背負い崩れでしょうか」なんて。



大学時代の立川笑志さん(右端)。楽しくて、面白くて、しょうがなかった頃

落語って面白いな。人を笑わせるって楽しいな。少年の心に、笑いへの志が芽生えた。本人はけっこう真剣なんだけど、いつもそこには笑いがある。落語ができて心理学の勉強もできる地元の大学ってないかな。小さな蔵に入った夢が実現するには、まだ少し時間がかかる。

本人はけっこう真剣なんだけど、いつもそこには笑いがある。どこか可笑的い。

高校に入學すると、今度は文学にも目覚めた。もともと国語だけは抜群に成績が良かった。熱中したのは筒井康隆。不条理でブラックな笑いに憧れた。友人たちとSFの同人雑誌を作る。モチーフは真面目なのだが、どこかに笑いを入れてしまおう。小説家か、落語家か。夢はだんだん絞られてきた。やがて卒業の季節。高校出たら落語家に弟子入りしようかな。筒井康隆の影響で、心理学にも興味があった。落語ができて心理学の勉強もできる地元の大学ってないかな。そんな都合のいいことは…、あった。福岡大学人文学部文化学科。「こいつはいいやつで、推薦入学受けて」。

笑う。そんな雰囲気笑志には快かった。

「今思うと、噺家(はなしか)の世界のまんまで、いい勉強になりました。彼は演目を懸命に覚え、精進し、そしてたくさん笑った。その日々が芸の肥やしになった。やがて後輩もできた。彼の高座名も真打格に変わり、福々亭夢小蔵(ゆめこぞう)。しかし、小さな蔵に入った夢が実現するには、まだ少し時間がかかる。

笑いへの志。

落語家 立川 笑志さん

笑いに目覚めた12歳の少年が笑いへの志を胸に生きてきた。今、43歳。プロの落語家。可笑しく、楽しく、そして心に何かを残す噺を求めて立川笑志、チャレンジを続ける。

笑門来

たてかわ・しょうし PROFILE

本名:赤木進 1963年福岡県二日市生まれ。1986年福岡大学人文学部文化学科卒業。1988年立川談志に入門。1997年二つ目に昇進。

無事合格。立川笑志、落語人生の本当の始まり。

入学式が終わってすぐ、自分で「落語研究会」を訪ねた。高座名は福々亭小する。当時も今もオチケン、礼儀が厳しい。ついた師匠(先輩)に落語を教わり、挨拶や普段の口の聞き方まで教わる。反面、ふざけるときは大いにふざける。

OB・OGメッセージ 就職のための My Challenge
私のチャレンジ

やっぱりこれでしょう！
矢も盾もたまらなくなつて、上京した。
24歳。落語家としては遅いスタート。
これはもう師匠との闘い。
『子ほめ』から『井戸の茶碗』へ。



なにがあっても楽しく生きる。
そうすれば道は拓ける

卒業を控え、笑志は迷う。噺家にはなりたいけど、やっぱり無理かなあ。まともな道にいこうかな。幸い、全国でも大手の一流企業に入社できた。将来性もある。給料もいい。でもなんか違うと思う。休みの日に落語を聴くと、心の中にくすぶっているものがある。それでも2年間は我慢した。ある日、会社の宴会で幹事をやらされた。幹事は恒例として司会もやる。これが受けた。わんわん受けた。素晴らしい充実感。小学校6年の時の発表会を思い出した。やっぱりこれでしょう！矢も盾もたまらなくなつて、彼は上京した。落語家になるために。

舞台のそばで弟子にしてください！と頼んだ。師匠はひとこと
「楽屋に來い」。
紆余曲折はあったものの、彼は立川談志に弟子入りできた。24歳。落語家としては遅いスタートだった。

東京にアパートを借り、高座通いを始めた。最初、ある有名な落語家を訪ねた。その彼は弟子をとらない主義だと言った。「他んとご紹介してやるよ」。その他んところが、どうもピンとこない。そんなある日、立川談志の高座を見た。行った。すげえなあ。

遅いスタートを補うためには努力しかない。だから懸命に努力した。1997年、二つ目に昇進。入門から8年半だったが、その間に実力は十分に蓄えた。やがてその芸が注目されはじめ、NHKの賞などを与えただけになった。覚えた演目も100席を超えた。さあ真打ち。しかし、師匠がクビを縦に振らない。「歌舞音曲もじっくり覚えな」。それを覚えないうと古典落語は演じられないと言った。なるほどと思ひ、懸命に習った。月日がたつて多少歌舞音曲にも自信を持った。さあ師匠、これでどうだ。「まだまだ、だな」。

ピンと来た。
この人しかいないと思った。

これはもう師匠との闘い。
奮闘は今でも続いている。

「順調に行くより、私らしくっていいかな」と今は思っています。噺家は50、60(歳)が勝負。それ考えると、あせることはないんですよ。師匠、厳しいとは思いますが、でも照れ屋の師匠らしいコミュニケーションの取り方なのかもしれない。まあ、成るようになるさ。

成るようになるさ。でも「成る」までが大変なんだ。努力して、頑張つて、まっすぐに生きていなければならぬにも「成らない」。成る準備を精一杯やったからこそ言える

会社の雰囲気、街の温かさ、働きながら陸上を続けられること。すべての理想がかなった。



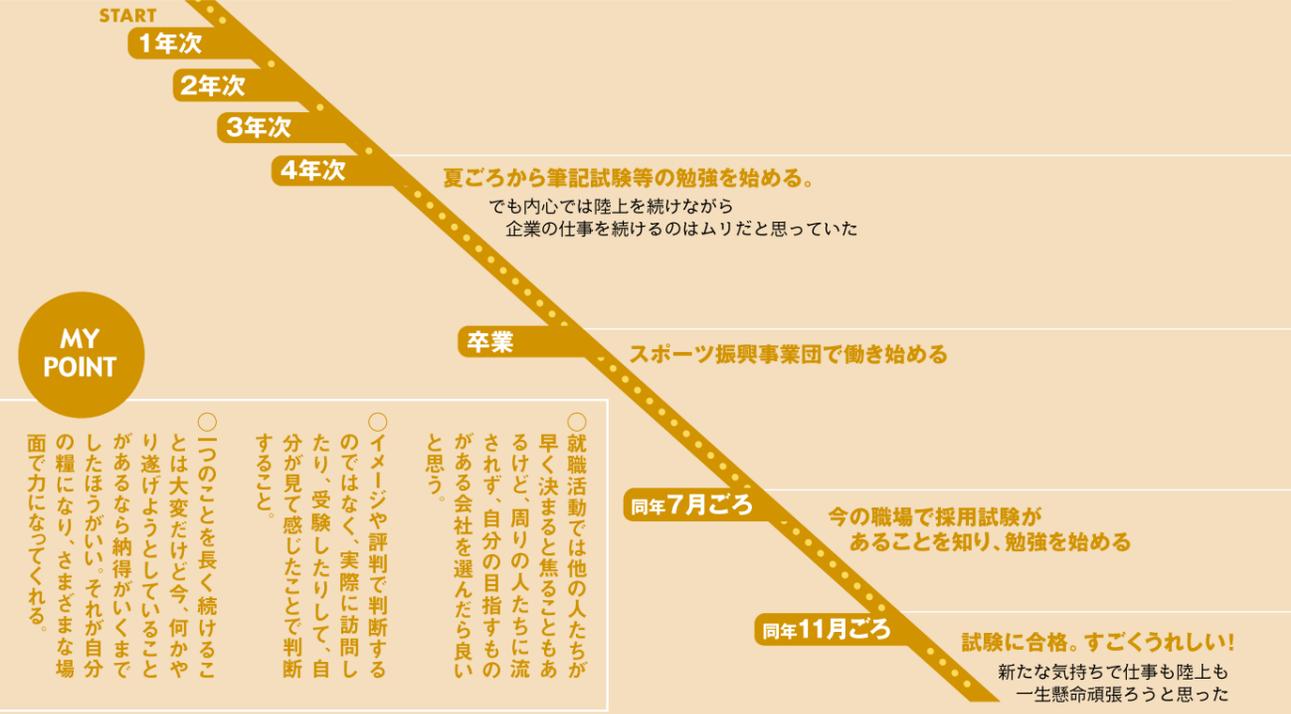
スポーツ科学部健康運動科学科
2003年卒業
三井水道企業団
総務課
石川 貴子さん



私は大学で4年間陸上(棒高跳び)を続けていました。社会人になつても続けたいという気持ちはありましたが、会社の仕事をしながら競技を続けることは難しいと思っていました。卒業後はスポーツ振興事業団にお世話になつていたので、そんなある日、三井水道企業団の採用試験のことを知りました。会社のある小郡市には、大学時代に何度か試合で訪れた時、まったく知らない私のことを応援してくれたり、親切に接してくれたり、とてもいい印象が残っていました。また、街の雰囲気が私の地元によく似ていたこともあり、親しみを感じました。私は人と接することが好きなので、そういう地域の人たちと接する仕事ができるというところに惹かれました。それから社会人でも陸上をできる環境にあったこと。棒高跳びは特殊なので場所や器具など環境がないとなかなかできませんが、ここならそれが可能だと思えました。筆記試験等の勉強は4年次の夏からしていましたが(かなり遅かったと思います)、大学で4年間、社会人として1年間陸上を続け、それを通して得た精神力と強い体力、そして友人や仲間との交流で成長できたことが難関を突破する大きな力や支えになってくれたと思います。面接は、一瞬で自分のことを判断されるので、自分の伝えたいことを相手の目を見てはっきりと伝えること、質問に対してマニュアル通りではなく自分の言葉で伝えることを心掛けました。

現在は、事務職員として、電話応対、水道の開閉栓、検針等を行っています。陸上も懸命に頑張つて、街の人や会社の温かい応援に励みたいと思います。

就職のためのチャート



MY POINT



年に何度か高座に上る「横浜にぎわい座」

笑志。笑いを志す人。

淡、清廉な人物だ。下手すると一本調子の味のないない噺になりかねないが、その人生経験豊か、世俗に長けた噺家が演じると、人情味の傑作になる。可笑しくて笑えて深い。彼は今、そんな心境になっているのかもしれない。12歳の時の『子ほめ』から『井戸の茶碗』へ。その道は私たちが考えるよりずっと遠かったはずだ。

学生ボランティア

今、自分たちにできること。今、自分たちがしたいこと。その精一杯を、人へ地域へ。



自分たちが楽しむのもいいでも周りの人が喜んでくれたらもっといいんじゃないかと思うそんな気持ちで僕たちはいる



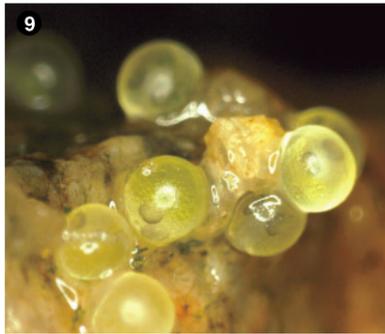
- ①先輩の教えが大きなチカラになっている、と話す小田さん
- ②鬼に扮した部員が、子どもたちと楽しくコミュニケーション
- ③人形も小道具・大道具もすべて自分たちの手作り。だから温もりがある
- ④昔ながらの手作りの人形劇。今の子どもたちにはかえって新鮮かも
- ⑤劇が終わったらみんなであいさつ。「お兄ちゃん、お姉ちゃん」と声がかかる
- ⑥笑いは最高のコミュニケーション、と話す宮本さん
- ⑦懸命な演技に満員の客が爆笑で応えてくれる
- ⑧僕らが楽しく演じていると、見ている人も楽しくなる
- ⑨入部したら先輩(師匠)につく。先輩の高座名も受け継ぐ

自分も相手も気持ち良くなれる。それがボランティアの基本、かな。児童文化研究会

七隈祭で賑う、キャンパス。10号館2階の教室。元気な子どもたちの歓声が外からも聞こえます。児童文化研究会の人形劇。おなじみのキャラクター「しまじろう」と仲間たちが鬼を退治に行くお話です。しまじろうたちは人形ですが、鬼たちは部員が扮装して子どもたちとおしゃべりしたり、じゃんけんゲームをしたり。その話し方や遊び方の上手さにまず感心しました。「みんな、最初の頃は戸惑っていたんですよ。どんな風にとけこんでいいのか分からなくて」。そう言って笑うのは幹事の小田隆文さん(商学部3年次生)。「でもだんだんと先輩に習ったりして慣れてきました」。児童文化研究会は歴史あるサークル。子どもたちとの接し方も、受け継がれていく伝統の一つです。「そうですね。伝統のチカラ。先輩たちに感謝です」。現在のボランティア活動の柱は6月、11月、12月の人形劇公演。そして「七隈アンビシャス広場」活動への日常的な参加です。これは子どもたちの健全な育成を目的に福岡県が推進している運動で、地域の方々やボランティア団体などが協力して、イベントやお祭りなどを行います。児童文化研究会は「七隈アンビシャス広場」発足の翌年から参加し、今も時間が許す限り子どもたちと交流しています。今日のお客さまもアンビシャス広場の子どもたちでした。広場の会長、谷村幸子さんは「子どもたちにとっては良いお兄さんとお姉さん。体力と情熱があるから、私たちにできないこともキチンとしてくれませ」と笑顔で。人形劇が終わり、サークルのみんなであいさつ。子どもたちの歓声がひととき大きくなり、楽しい交流の輪が広がります。幹事の

小田さんが「ボランティアって、自分も相手も気持ち良くなることですよ」と、つぶやきました。笑いは最高のコミュニケーション。世代や立場も軽く越えられる。落語研究会

七隈祭の同じ日。こちらは8号館。落語研究会の第38回「七隈寄席」が開かれていました。第38回という数字が示すように、落語研究会は福岡大学でも屈指の伝統を誇るサークル。ボランティア活動にも古い歴史があります。年5回の学内寄席の他に、地域の公民館や老人ホームで「席何う(公演する)のです」。「基本的に定期公演と演目は変わりませんが、マクラ(前口)などはアレンジしますね。例えば、お年寄りの方が多い時は、若い人向けのギャグはやめにして」。そう話すのは幹事の宮本健太郎さん(経済学部3年次生)。古典落語は江戸時代の初期頃から続くもの。歳月に磨かれた演目は現在でも十分に通用すると宮本さんは言います。そして笑いは最高のコミュニケーションだとも。「若い人でもお年寄りの方でも、面白いところではみんな笑ってくれます。世代や立場は関係ありません。笑えばストレスなんて吹っ飛ばすじゃない」。地域の公民館や老人ホームで見た方が、落語研究会のファンになり定期公演に来てくれます。逆に、定期公演を見た方が地域の公民館や老人ホームの公演にも来てくれることもあります。そうやって大きくなっていくコミュニケーションの輪が、落語研究会の大きな支えになっているのです。「僕らが楽しく演じていると、見ている人も楽しくなる。ボランティアって意識、あまりないんですよ」。高座の時のような晴れやかな笑顔で、宮本さんは言いました。



- ① 花畑老人ホームに集まったメンバーたち。今日はこれでも少ないほう
- ② 「定期的な活動の他にもイベントを手伝ってくれる。助かります」と花畑老人ホーム介護職副主任の田代さん
- ③ シーツ替えのやり方は先輩が手取り足取り教えてくれた
- ④ ベッドが終わったら配膳のお手伝い。午後は喫茶コーナーを開いて会話をします
- ⑤ 「ボランティアは生活の一部。当たり前のことなんです」と大道さん
- ⑥ メンバーの指導により川の水质・生物・植物調査を行う
- ⑦ 実際にゴミを拾いながら、どんなゴミが落ちているかも調べる
- ⑧ 子どもたちも真剣そのもの。こんな体験が環境保護への気づきになる
- ⑨ 嬉しいニュース!清流のシンボル・鮎の産卵が川の下流で確認された



誰かがやるとみんなが思ったら
結局、誰もやらない
自分がやるというキモチ
それは何かを変えていくチカラ



学生ボランティア

ボランティアって意識が心のどこかにあるうちはまだまだ未熟だねって、先輩にやさしく言われた。

その活動はもう、生活の一部。辛いなんて考えたこともない。ボランティアサークル

「こんにちは、おじいちゃん」。サークルの女子部員が車椅子のお年寄りに話しかけています。ひざをつけて、お年寄りと同じ目線で。昨年11月26日。福岡大学ボランティアサークルが、定期的にサポート活動を行っている「花畑老人ホーム」でのコマです。ボランティアサークルは、その名の通りボランティア活動のためのサークル。養護施設、老人ホーム、障害者施設の3班に分かれ、活動をしています。

今日は老人ホーム班の活動日。他の班からの応援も含め約10人が、ベッドのシーツ替え、配膳のサポートをしています。午後からは喫茶コーナーを開き、お年寄りの話し相手になります。「いえ、話し相手というより話を聞かせてもらっているという感じです。人生の重みというか、ホント勉強になりますよ」と幹事の大道正幸さん(理学部2年次生)。その傍らで、介護職副主任の田代潤子さんが「定期的な活動の他にもクリスマスや節分などのイベントも手伝ってくれます。力のある若い人がいると本当に助かる。シーツ替えにしても、みなさん上手で」とコメントを。シーツの替え方などは、先輩たちが後輩に特訓して教えてくれるのです。ボランティア活動を生活の一部として普通に考える、そんな気持ちの在り方も先輩が教えてくれたと大道さん。「大学に通うのといっしょです。もう当たり前のこと」。メンバーがお年寄りの方々とおしゃべりしながら配膳する、その食堂にこんなスローガンが貼ってありました。「介護は人間だけができる尊い仕事である」。

鮎のたまごが下流で見つかった。水質が良くなっている証拠かな。はかたわん海援隊

昨年11月5日、樋井川。本学工学部社会デザイン工学科で結成した「はかたわん海援隊」(代表者・渡辺亮一講師)と市民団体「樋井川を楽しむ会」共催で『第1回樋井川一斉環境調査』が行われました。これは、福岡市を流れる樋井川の上流から下流まで水質がどのように変化しているのか、また、水辺の生物や植物についても調べることで、樋井川の現状を理解し、問題点を明らかにすることを目的に行われたもの。はかたわん海援隊は「自然にやさしい工学」をテーマに日頃から河川清掃などのボランティア活動を行っており、今回はその一環として参加しました。

当日は親子連れの姿もあり、なんだかピクニックのよう。会のメンバーも晩秋の一日を楽しみながらの調査です。参加者は、樋井川の上流、中流、下流の5カ所に分かれて集合し、はかたわん海援隊のメンバーの指導により、水質調査(水温、COD、窒素、リン酸)や生物調査、植物調査などを行いました。また、実際にゴミを拾いながら、どのようなゴミが落ちているのかも調査しました。「自転車をはじめ、さまざまなゴミが不法投棄されているのにびっくり。なんか同じ人間として恥ずかしい」と、メンバーは複雑な面持ち。参加した子どもたちも河川の状態に驚いた様子です。でもうれしいニュースも。今回の環境調査では、清流のシンボルともされる鮎の産卵が下流域で確認されたのです。「水質が良くなっている証拠かな」。メンバーの顔にようやく嬉しそうな笑みがこぼれました。



感受性の鋭い時期にありがちな心の悩みや不安。
皆さんは感じたことはありませんか。
そう、誰だってそんな気持ちになることがあるんです。

「春休みは今までの自分をリフレッシュ」

ヒューマンディベロップメントセンター
各種セミナー・講座のご案内

自分の良いところってどこだろう。自分の居場所ってどこだろう。若い時期には多かれ少なかれ、そんな悩みを持つものです。HD(ヒューマンディベロップメント)センターでは、そんな気持ちのあなたのために各種セミナーや講座を開設しています。なりたい自分を探す、対人関係がスムーズにいくように自己表現の方法を身に付ける、ストレスと上手につき合う。どのセミナーや講座も楽しく、気軽に参加できるものばかり。あなたが心の薄暗がりにならないように、アンカー(重し)を付けることができないなら、と考えています。ここで自分に自信を持って居場所を見つけて、そして友人を作ってください。申し込みは先着順に受け付けます。また、事前にセミナー・講座の説明も行います。まずは気軽に電話ください。

お問い合わせ先
●092(871)6631
●内線 2630



専門カウンセラーの屋宮公子先生

参加費無料

自己表現講座

話しながら、楽しみながら、コミュニケーション

自分の気持ちがうまく伝えられなくて、引っ込み思案になったり、攻撃的になったり。そして人間関係が苦痛になる。そんなことはありませんか。この講座では、自分の表現やコミュニケーションの取り方について、さまざまな体験を通して学べます。「遊び心」や「学び心」をミックスしながら「自分を表現すること」を学ぶ講座です。コミュニケーション理論の基礎をはじめとして、*アサーショントレーニングで使われるロールプレイなどの体験を通して「自分らしい表現」について考えます。他にも皆さんがリラックスして参加できるように、さまざまな工夫をこらしています。
*アサーションとは、自己(他)尊重に気づく率直で自分らしい表現のことです。

日時 3月15日(木)・3月22日(木)・3月29日(木)
12:40 ~ 14:10
14:30 ~ 16:00 (6回シリーズ)
場所 HDセンター(学生課3階)
講師 およびファシリテーター
屋宮公子カウンセラー(臨床心理士・シニア産業カウンセラー)
松岡裕子カウンセラー(臨床心理士)
※単発やシリーズを自由に組み合わせるの参加も可能です。



参加費無料

なりたい自分探しセミナー

「なりたい自分」について、じっくり考えるための講座です。就職活動に取り組む前に、ゆったりとした時間の中で、自分の生き方や将来・夢や進路について、考える機会を作ってみませんか。皆さんがリラックスして参加できるよう、楽しんで取り組める作業やゲームなどを工夫しました。お茶とお菓子も用意します。「自信がちょっと足りないかな?」と思っている人へ、自分のいいところをここで探してみませんか。

日時 2月20日(火)・2月27日(火)・3月6日(火)
12:40 ~ 14:10
14:30 ~ 16:00 (6回シリーズ)
場所 HDセンター(学生課3階)
講師 およびファシリテーター
屋宮公子カウンセラー
成瀬穂美(就職・進路支援センター職員)
※単発や、シリーズを自由に組み合わせるの参加も可能です。

参加費無料

ストレスとの上手な付き合い方セミナー

学生生活でたまってしまったストレスを発散するセミナー。そしてストレスとの上手な付き合い方を、いっしょに考え、楽しく学ぶセミナーです。音楽や身体のイメージを使った、ストレス解消方法が体験できます。

日時 3月27日(火)
12:40 ~ 14:10
14:30 ~ 16:00 (2回シリーズ)
場所 HDセンター(学生課3階)
講師 およびファシリテーター
屋宮公子カウンセラー 他

Information

HDセンターのご案内



場所/学生課の3階
開室日/月曜日~金曜日
開室時間/9時30分~16時(火曜・木曜は18時40分まで)
電話/092(871)6631 内線2630 ※お電話は16時30分までお願いします。
スタッフ/男性カウンセラー1名、女性カウンセラー4名。受付2名。

月1回、精神科医による専門相談もあります。
相談は無料です。お問い合わせ・お申込みは、来室もしくは電話で受け付けています。
相談内容の秘密は守ります。安心して相談してください。保護者、教職員のみなさまのご相談もお受けしております。

ヘルシー モーニングレシピ
Healthy Morning Recipe



野菜たっぷりチーズ鍋焼きうどん

寒い朝は白菜やきのこを、ほかほかで食べよう

【材料】3人分

鶏もも肉	150g	【だし汁】
かぼちゃ	150g	だし汁.....4+1/2カップ
白菜	150g	しょうゆ.....大さじ3
まいたけ	1パック	みりん.....大さじ1
小ねぎ	60g	
ゆでうどん	3玉	
細切りチーズ	60g	

【作り方】

- 鶏肉は一口大に切り、かぼちゃは種とわたを取って薄切りにする。
- 白菜はざく切りにし、まいたけは小房に分ける。小ねぎは長さ5cmに切る。
- 鍋にだし汁の全材料を入れ、煮立ってきたら①を加える。
- かぼちゃがやわらかくなったら、ゆでうどん、②を加え、落としぶたをして約5分煮る。
- 火を止めて、チーズをのせる。出来上がり!



【ヨーロッパ法コレクション】
法学の源流をたずねて
—すべての法はローマ法に通ず—



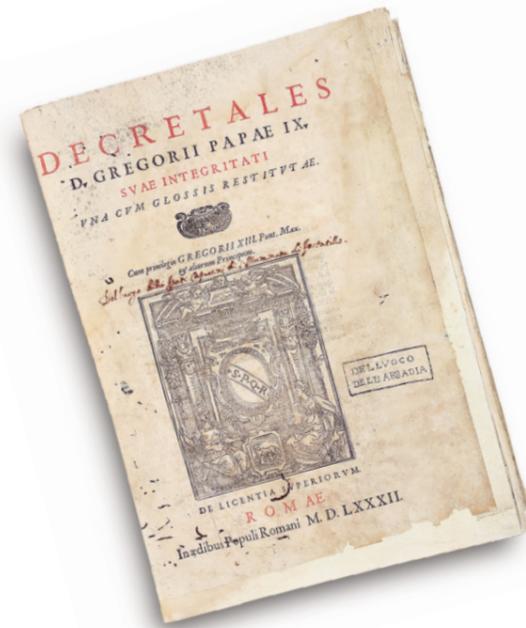
福岡大学図書館特別展

昨年11月2日から7日にかけて、丸善・福岡ビル店3階ギャラリーで、福岡大学図書館特別展「ヨーロッパ法コレクション」が、法学の源流をたずねて—すべての法はローマ法に通ず—を開催しました。図書館が1984年に創立50周年記念事業の一環として購入し、その後20年以上にわたり補充に努めてきた「ヨーロッパ法コレクション」の中からローマ法を中心に47点を選び、ヨーロッパ法の歴史をたどるといって一般の方にも分かりやすく展示しました。

度には、図書館が企画・制作したDVD版「福岡大学創立70周年記念「ヨーロッパ法コレクション」総目録・ローマ法大全（ゲバウエル・シュンゲンベルク版）」が私立大学図書館協会賞を受賞しています。

展示では、ヨーロッパ法文化の基礎としてのローマ法・カトリック教会法の原典、ローマ法・カトリック教会法の解釈史、ローマ法の「現代化」、帝国法と近世自然法、地域法の編纂、近代国家における法典編纂の6部構成で、各代表的書物・資料を紹介しました。これにより、法律に関心のある方はかりでなく、西洋の書物史に関心のある方にもご覧いただき、期間中1,271人の来場があり好評でした。

ローマ版「(カトリック教会法大全)教皇グレゴリウス9世教皇令集」(1582年)



『ヨーロッパ法コレクション』
貴重書コレクション

ポルタ版「(ローマ法大全)ユースティニアヌス学説類集・新部」(1551年)

明治以降、わが国は近代化の環として、西欧文化の吸収に努めてきました。法学の分野においても不平等条約改正の目的もあって、西欧法を模範として法整備を急ぎました。西欧法文化の歴史をたどることは、統合への道をたどりつつあるヨーロッパ法を理解することに役立つばかりか、わが国の法それ自体を、より良く知ることにも役立つこととなります。

西欧法文化の歴史をたどるとき、これまで、明治期にわが国が模範としたフランス・ドイツを中心とする各国別の法学がその主な対象でした。しかし、西欧法の歴史は、ローマ法およびカトリック教会法以来、二千年に及ぶものです。ピラミッドに例えるならば、土台にあたるローマ法およびカトリック教会法以来の歴史をフレン語で書かれた原典に即してたどり、これによって、わが国が今まで西欧法文化の何を受け継ぎ、また、何を受け継がなかったかを検証する必要があります。

福岡大学は、創立以来、このような文献の収集に努めてきました。なかでも昭和59年に、創立50周年記念事業の一環として所蔵するに至った「ヨーロッパ法コレクション」は質・量ともに、わが国はもろん、世界的に見ても有数の法文化遺産です。その概要は、昨年11月上旬に開催された福岡大学図書館特別展「法学の源流をたずねて—すべての法はローマ法に通ず—」で紹介され、また、近々図書館ホームページにもあらためて掲載される予定です。ぜひ、ご覧ください。

Book Review

新刊本紹介
教職員・OB・OGがおすすめます
福大生にこの一冊!
活字離れがすすむ今だからこそ、見直したい書物という知の泉。本学関係者の新刊本を紹介します。

ここが知りたい 建築の?と!
日本建築学会 編
技報堂出版(株)
2006年9月刊
定価1,890円(税込)

本書は、(社)日本建築学会が毎月発行している会誌に2004年から2005年の2年間に掲載された連載記事をまとめたものにも、関心が高いと思われるテーマを追加したものである。全部で46のテーマが幅広く取り上げられ、それぞれのテーマをその分野の専門家ができるだけわかりやすく執筆している。談合や偽造問題、悪質な住宅改修、産業廃棄物の問題など、建築を取り巻く状況環境は決して良い状況にあるとは言えない。このような状況だからこそ、建築の今をわかりやすく伝えることは非常に重要なことであり、本書が少しでも役立つことを期待したい。もちろん建築を学ぼうとする学生や一般の方々にとつても良い参考書となることは言うまでもない。

高山肇夫 工学部教授

競技力向上と障害予防に役立つ
経絡ストレッチと動きづくり
向野義人 編著
朝日山男・初山隆裕 著
(株)大修館書店
2006年5月刊
定価1,785円(税込)

内臓や四肢関節と連絡して身体を調節し全身運動とも関連している経絡。これが動きを伴うことで痛みが出現し可動域が制限される場合、それに関わる経絡をストレッチすることが痛みを除去し、競技力向上や障害予防に役立つこと。さらにどんな動きづくりを行うことが経絡に良い刺激を与えるかを多数の写真を使って示す。

プロローグ 現代医療としての東洋医学
第1章 経絡と経絡テスト
第2章 経絡ストレッチの実践
第3章 動きづくり理論と軸体操
第4章 さまざまなスポーツの動きづくり(実践編)

向野義人 スポーツ科学部教授

福岡の休日
川上信也 著
(有)海鳥社
2006年4月刊
定価2,100円(税込)

福岡は美しい。都市周辺は豊かな山々、海に恵まれ、百万都市とは思えない美しい風景が広がっている。かつて大分県くじゅうの風景に魅せられ写真家を志した著者は、大学時代を過ごした街、福岡を見つめたおもしろい、そしてくじゅう以上の魅力的な写真が撮れるかもしれないと撮影活動を開始した。およそ3年をかけた撮影された福岡周辺の風景は、長年住んでいる者でさえ見過ごしていた福岡の魅力に満ちている。まるでハワイのような糸島周辺の海、キッネツカミソリ大群落が広がる井原山、真っ赤に染まる朝焼けの福岡市など、視点を変えたらまた違った魅力に溢れている。このことを再発見させてくれる福岡の写真集である。

川上信也 1995年工学部建築学科卒業

歴史はおもしろい
12のテーマで読み解く高校生のための歴史学入門
福岡大学文学部歴史学科 編著
西日本新聞社
2006年9月刊
定価1,000円(税込)

本書は、福岡大学文学部歴史学科の教授ら12人が執筆。暗記中心の詰め込み教育が懸念される中、大学受験を目指す高校生を対象に、歴史学本来のおもしろさをわかりやすく伝えるよう構成されています。高校生や一般市民でも興味をもてるテーマを取り上げ、平易な言葉で語りかけるように書かれているのが特徴です。

吉野ケ里遺跡や九州男児に関する考察など郷土の歴史についても解説されており、高校生だけでなく、歴史に興味のある人にも「入門書」として楽しめる一冊です。

◆福岡大学の教職員、OB・OGの方で新刊本の紹介を希望される場合は左記の要領でお申し込みください。
1. 対象 市販されている書籍(共著を含みます)。なお、テキスト類は除きます。
2. 提出していただくもの ①出版物の現物(福岡大学図書館または広報課へ郵送するか、返却を希望するかを明記してください) ②内容の要旨(200字程度)
3. 提出先 福岡大学企画部広報課
〒814-0180 福岡市城南区七隈八丁目19番1号
TEL 092-871-6631(内線4635)

Event Schedule

- 1月** 冬季休業終了(5日)
後期授業再開(6日)
推薦入学〔教育・臨床心理学科、看護学科〕合格発表(11日)
後期授業終了(13日)
後期定期試験(15日～27日)
大学入試センター試験(20日・21日)

- 2月** 学部留学生入試(2日)
一般入試〔前期日程〕(本学・地方4日～9日、11日・12日)
成績発表(4年次生以上ほか)
医師国家試験(17日～19日)
大学院春季入試(18日～23日)
一般入試〔前期日程〕、大学入試センター試験利用入試合格発表(23日)
学部留学生入試合格発表(23日)
一次学士合格者発表
交換留学生派遣(中国・中国〔台湾〕・韓国・豪州)
海外研修生派遣(米国・豪州)(2月20日～3月20日)
海外春期中国語研修生派遣(中国)(2月25日～3月11日)



- 3月** 大学院春季入試合格発表(7日)
一般入試〔後期日程〕(8日)
社会人入試、編・転・学士入試〔後期日程〕、スポーツ科学部特別募集(9日)
一般入試、社会人入試、編・転・学士入試〔後期日程〕、スポーツ科学部特別募集合格発表(16日)
二次学士合格者発表
学部卒業式・大学院学位記(修士号)授与式(20日)
大学院学位記(博士号)授与式(22日)
成績発表・履修登録(在学生)(下旬)
医師国家試験合格発表(29日)



- 4月** 入学式(2日)
前期授業開始(10日)



▲懇親会パーティー。会話が笑い声も明るく、楽しく弾んで

同窓会組織・宗像支部よりケヤキの寄贈

同日、ホームカミングデー式典の前に、ヘリオスホール前庭にて同窓会組織の地域支部、宗像支部(天野一二支部長)からケヤキの寄贈(1本)があり、「福大生ステップアッププログラム」の一環として、記念植樹を行いました。セレモニーには宗像支部の皆さま、山下学長他本学関係者、在学生が出席。学長、支部長の挨拶の後、在学生代表が感謝の言葉を述べ、学長と支部長による植樹がつつがなく行われました。

テーマは「躍進」、第51回七隈祭開催

昨年10月29日・11月1～4日にわたり、本学キャンパスにおいて第51回「七隈祭」が開催されました。半世紀以上の伝統ある名物行事では、今回も地域交流を目的とした「歌祭」など地域の方々の参加や招待もあり、大学の枠を超えたオープンイベントとして、すっかり福岡の秋の風物詩となりました。また、同時期に医学部による第26回「医学祭」、商学部第二部による第8回「雅祭」、附属看護専門学校による第31回「楓祭」も開催されました。

2枚の写真から 「大学全景」



あの頃 Before

▲写真提供:福岡大学大学史資料室



今 After

昭和10(1935)年頃の全景写真(写真上)。前身の福岡高等商業学校が創立された翌年、七隈校舎が開校して間もない頃

です。周りにはこれといって建物はなく、雑木林や田んぼ、池などに囲まれていることがわかります。それから早、70年余。まさに隔世の感がありますが、ここ七隈の地で学生が青春を謳歌していることには何ら変わりはありません。

あの日、あの時。
ホームカミングデー

Home Coming Day

拡張・発展から成熟・安定へ
20万人の卒業生に、福岡大学の輝く未来を誓う。

本学卒業生の集い「ホームカミングデー」が、昨年11月3日(祝)、ヘリオスホールにて開催されました。5回目を迎えた今回も、500人以上の卒業生の皆さまを迎えるほどの大盛況。第1部は60周年記念館3階のヘリオスホールを会場として午前11時から始まりましたが、会場の椅子に座りきれず、ホールに設置されたモニターを注視していました。



▲立ち見でモニターを見る方々も出る盛況

山下学長、井口有信会理事長の挨拶の後、向野義人スポーツ科学部教授の講演「ツボでいきいき―疲労回復から長寿まで―」が行われました。続いて在学生代表の挨拶の後に、交響楽団の演奏とハートフルボイスの合唱。最後の校歌斉唱では卒業生の皆さまの歌声がホールに大きく響きました。

第2部は午後0時30分から文系センター棟4階の特設会場で、立食形式による懇親会が行われました。なお、平成19年度は創立記念日の前日、5月20日(日)に変更して開催の予定です。卒業生の皆さまの参加を心よりお待ちしております。

福岡大学同窓会(社)有信会



▲少子化の波と戦っている母校をしっかりと支えてくださいと、井口有信会理事

本日は第5回の卒業生の集い「ホームカミングデー」を開催していただき、有信会会員である福岡大学卒業生を代表して厚く御礼申し上げます。福岡大学では有信会の各種行事や地域支部、職域支部総会に学長先生、副学長先生をはじめ諸先生方にご参加いただき、

井口政壽理事長挨拶

また卒業生を順次入学式にお招きくださるなど、卒業生との絆を大事に考えていただいております。今年も学園祭に合わせて「ホームカミングデー」が行われました。講演のテーマも卒業生にとって最も関心の深い健康についての興味深い話を取り上げていただき有り難く存じます。少子化の波をかぶって大学の経営は大変な局面を迎えております。全国のおよそ550の私立大学のうち定員割れに陥っている大学が22校、およそ40%に達していると新聞が報じています。50%を超える定員不足の大学も20校に及ぶそうです。幸い福岡大学の経営は非常に健全であります。しかし、福岡大学にも例外なく少子化の波は押し寄せています。どうか皆さまもこれからは少子化の波と戦っている母校福岡大学をしっかりと支えてください。久しぶりですが、ぜひ訪れた方もいらっしやるでしょう。どうか福岡大学の発展ぶり、変貌ぶりをご覧になっていただきたいと思っております。今日は福岡大学と有信会との交流を二層深めてくださいますようお願いしまして挨拶いたします。

山下宏幸学長挨拶(抜粋)



▲訪れる人々を「七隈の杜」でもてなしたいと100年構想を語る山下学長

本日はようこそ母校福岡大学を訪問していただきました。私たち一同、心から歓迎申し上げます。また、卒業生の皆さま方には日頃から母校福岡大学のために温かいご支援ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。さて、母校福岡大学は本年、創立72周年を迎えました。3年後の75周年に向けて様々

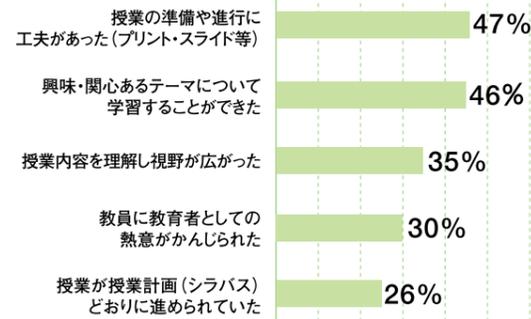
な事業を企画し、実行できることから進めているところです。本学72周年の歴史を読み返してみると、戦前・戦後の混乱期や60年・70年安保、さらに大学紛争など困難が幾度もありました。そのような中、学生、職員が一丸となって克服し、今日の伝統や学風を築き上げてきました。今後、福岡大学は「拡張・発展」から「成熟・安定」と脱皮してまいります。そのためには、大学の使命である教育研究と医療活動の向上に努めることは当然として、その環境づくりを積極的に図りたいと考えています。すなわち、総合的なイメージ大学の形を75

周年、100周年をかけて確かなものとして定着させることです。具体的には文化、歴史、環境の3つを関連づけて、福岡大学のイメージを確かなものにする事を想定しています。〔中略〕
上質の文化と歴史の風景を5年、10年、100年かけて確かなものとし、訪れる人々を「七隈の杜」でもてなしたいと思っております。最後に、このホームカミングデーが、福岡大学と卒業生の絆をますます強め、共に発展していくエンジンとなることを期待し、また、皆さまのますますのご活躍を祈念して挨拶いたします。

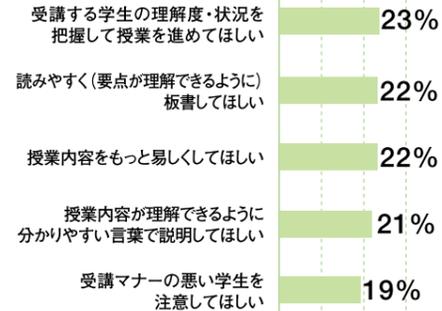
総合系列科目・総合科目・教養ゼミに関するアンケート結果(抜粋)

「総合系列科目」・「総合科目」に関して

Q. あなたがこの授業を履修して、良かったと思うことは何ですか? (複数回答可)

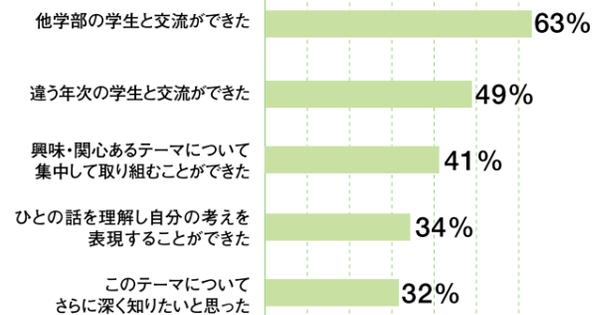


Q. あなたがこの授業を履修して、改善してほしいと思ったことは何ですか? (複数回答可)

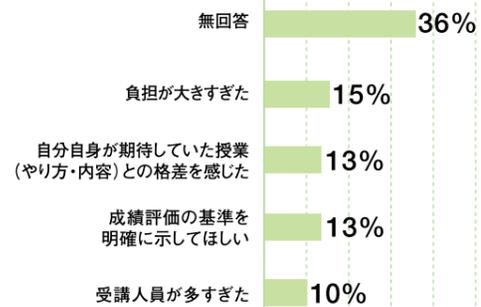


「教養ゼミ」に関して

Q. このゼミを受講して良かったと思うことは何ですか? (複数回答可)



Q. このゼミを受講して改善してほしいと思ったことは何ですか? (複数回答可)



● 共通教育センターから

— 懇談会を終えて



共通教育センター長 平松 信康 (理学部教授)

教養科目の必要性の認識を高めながら授業改善にも努力していきたい

「学生との懇談会」を始めて今回で5回目を迎えるのですが、アンケートでは知らない学生諸君の「生の声」が聴けて大変有意義なものでした。
懇談会を通して感じたことは、教養科目の必要性の認識、成績評価の差異、科目を選択する際の考え方について、疑問や戸惑いがある学生もいるということです。
センターとしては、このことを真摯に受け止め、教養科目への理解が深められるよう広報に努め、成績評価を含めてシラバスの内容を充実させ、授業の進め方の工夫等を行いながら授業改善を進めたいと思います。

また、この授業改善を進めることにより、総合大学の利点を生かした多彩な共通教育科目の提供を行っていききたいと思います。

共通教育科目を学ぼう!

Vol.4



共通教育センターの活動については、これまでこのFROでも紹介してきました。センターでは、これらの活動を検証し、授業改善につなげるためにさまざまな取り組みを行っています。その取り組みの代表的なものに「学生との懇談会」や「各種のアンケート」があります。

学生との懇談会

昨年11月16日、文系センター棟16階スカイラウンジ日本間において共通教育センター主催により学生との懇談会が開催されました。5回目を数える今回の出席者は学生26人、平松センター長はじめセンター関係者6人。約2時間、学生の皆さんから真剣な意見が飛び交い、実りあるものとなった懇談会の様子を抜粋してお届けします。

共通教育科目は多くの学生が抱いている「他学部の専門分野に触れてみたい」という希望に応える科目だと思っています。

センター関係者(以下「センター」) まず始めに、「共通教育科目」に対してどのように感じているか教えてください。
学生 大学は所属学部の専門分野以外を自由に学ぶことができます。このことは大変意義のあることだと思います。
学生 なぜ「共通教育科目」がカリキュラム上に存在しているのですか。
センター 大学の教育は専門教育と教養教育の2つの柱から構成されています。専門教育を行うことは大学の大きな役割。その一方、一市民として広い視野をもった良識のある人間を育てるためには、教養教育の存在が不可欠なんです。そのためにカリキュラム上に「共通教育科目」が組み込まれています。特に、自分が高校では学ばなかったものを積極的に受講してほしいと思います。
学生 多くの学生にとって、どの「共通教育科目」を選択するか考える際、単位

取得の難易度は大きなファクターの一つです。

センター 確かに単位取得の難易度は学生の科目選択に影響を与えていると考えられますが、授業アンケートの結果から、「共通教育科目」の選択要因が決して単位取得の難易度だけではないと認識しています。授業内容に興味を抱いて選択している学生はたくさんいるんです。また、単位認定は原則として、教員個々の判断によって決定するものです。大学にはさまざまな考え方をを持った教員がいることは当然であり、これが大学教育のメリットでもあるんですよ。

学生 「総合教養科目」には、毎回授業に出席し真面目に講義に臨んでいるにもかかわらず、ほとんど内容を理解することができない科目もあります。

センター 学生が理解することのできない授業を行っていることは問題ですが、授業の良し悪しについては即時に判断できない面もあります。学問は難しいものです。100パーセント理解できた授業が身に付いた良い授業だったとは必ずしも言えない。実際に授業の場では理解できない部分があったとしても、後々振り返ると良い授業であったと感じることもあります。

FSP (福大生ステップアッププログラム)、元気に進行中

FSP (福大生ステップアッププログラム)は、大学教育を十分に修得し、社会人としての基本的素養を身に付け、さらに人間として豊かに成熟するための支援プログラム。建学の精神と教育研究の理念に基づいた全人教育、専門性を有した「人らしき人」を育成し、一人ひとりの可能性を広げるためのプログラムです。その元気で多彩なシーンをご紹介します。



Scene1

「アジア圏協定校との学生交流セミナー」で
本学F・I・T学生メンバーが大活躍



昨年10月16日から27日までの12日間実施された「アジア圏協定校との学生交流セミナー」には、本学の協定校である中国の烟台大学、華東師範大学、揚州大学、中国(台湾)の輔仁大学、韓国の梨花女子大学、高麗大学、東義大学、蔚山大学、釜山大学、ネパールのトリブヴァン大学、インドネシアのガジャマダ大学、フィリピンのドゥララサール大学の12大学23人の研修生が参加しました。このセミナーでひときわ輝いていたのが、福岡大学国際交流ボランティアチーム(F・I・T)のメンバーたち。延べ151人の本学学生が参加し、研修生到着時の出迎え、学内施設案内、日本語授業のアシスタント、NHK福岡・太宰府・九州国立博物館見学や中九州

研修旅行、北九州企業研修の同行、研修生との意見交換会など、セミナーの全日程において積極的に活動しました。F・I・Tメンバーにとってこのセミナーは、研修生との交流を通して同世代のアジアの若者との考え方の違いや共通点を学ぶだけでなく、それまであまり関心を寄せていなかった自国・日本の歴史、文化、伝統を再認識する大変有意義な機会となったようです。「今回の研修では、日本のことを再考させられました。日本人としては当たり前のことが外国人にとっては不思議に思えることが多くあり、それを説明することができなくて、もう少し勉強しなければと感じました。自分にとっても実りあるセミナーでした」(理学部3年次生・男性)。「この2週間の活動を通して、勉強に対する姿勢、他の国の文化に触れることの大切さ、相手を思いやる気持ちなど勉強させられることが多かったと思います」(経済学部4年次生・男性)。「国際交流はとても楽しい。これからもいろいろな国の人と話す機会があると思うので、その時に日本のことをしっかりと紹介できるように勉強しようと思いました」(人文学部2年次生・女性)。というようなF・I・Tメンバーの声がそのことを証明しています。

「アジア圏協定校との学生交流セミナー」は本年も実施予定。皆さんも交流の輪の中で輝いてみませんか。

Scene2

図書館長による
「読書会」を開催



図書館では、昨年11月27日、「読書会」を開催しました。長谷川図書館長が、推薦図書「(敗戦)と日本人」(保阪正康著)について話をされました。本書では、天皇、重臣、軍人、学生といったさまざまな立場の人たちの「(敗戦)」に至るまでの日記や回想録を読み解き、当時の日本人にとって戦争とは何だったのか、歴史の中で自らの戦争責任が語られないのはなぜなのか、日本人はなぜ責任の追及を回避するのか等を詳らかにしています。図書館長はこれらすべての日記、回想録を紹介しながら、本書の魅力や読むべきポイントなどを解説されました。その後の意見交換では、学生から熱心に質問されるなど、活発な質疑応答があり、参加者はさらに本書への理解を深めたようでした。

Scene3

小坂前文部科学大臣
作家・林望氏

「今を生きる教養講演会」を開催



林望氏 小坂前文部科学大臣

「第1回 今を生きる教養講演会」は昨年7月6日、小坂憲次文部科学大臣(当時)をお迎えし、831教室で開催されました。小坂前大臣は800人を超える学生と教職員を前に、「新しい時代を切り拓く君たちへー人間力の向上にむけて」と題して講演をされ、「未来は何が起るか分からない。無限の可能性を秘めた皆さんには、既成概念にとらわれることなく、好奇心をもって何事にも挑戦し、培った経験と判断力をもって明るい未来を創ってほしい」との熱いメッセージを送られました。

「第2回 今を生きる教養講演会」が開催されたのは昨年11月24日。今回は作家・書誌学者であり「イギリスはおいしい」などのエッセイでも有名な林望氏



を講師にお迎えし、A B O 1教室で「知性の磨きかた」と題して講演をしていただきました。自身の学生時代の体験談、最近の若者向けのベストセラー小説、そして源氏物語などの古典文学といった私たちにとって親しみやすい題材にユーモアを交えつつ、学ぶことの意味や大切さ、方法論について大変わかりやすくお話しされました。講演のなかで印象的だったのは、学問の専門的な部分だけを学ぶのではなく、先人たちが受け継がれてきたヒューマニティを大事にしなければならぬということでした。これは本学が掲げる「人らしき人」を育てるという全人教育の精神に通ずるものであり、これらが薄れつつあるこの現代に学ぶ学生にとって良きメッセージとなったことでしょう。会場は学生や一般市民の方々はほぼ満席となり、講演終了後のサイン会にも多くの方が来場され、盛況のうちに教養講演会を終了しました。

Scene4

「キャリア形成のアプローチ」
この講座の素晴らしさを
後輩たちに伝えよう！
プロジェクト



全日程の講座が終了した後、次年度の新入生に「この講座の素晴らしさを伝えたい」との一心で、1年次生参加者が現在も定期的に集まり、企画立案をしています。これは、講座の後期テーマの一つである「大学生活を10倍楽しむ方法」の中で、各グループが企画を出し合ってプレゼンテーションを行い、投票を経て決定した全員で取り組むプロジェクトです。「パンフレットを作ろう」、「事前ガイダンスに自分達も出席して講座の魅力を伝えよう！」など、さまざまなアイデアが湧き出しています。

この1年次生参加者が後輩のために何かをしたいと考え、能動的に行動しているという事は、この講座の目的を自ら体現している証明となります。

福岡大学法科大学院の快挙 新司法試験合格率は九州・四国でトップ

昨年9月21日に平成18年新司法試験合格者が発表され、本法科大学院は、受験者5人中合格者3人(合格率60%)と全国平均の合格率48.3%を上回り、九州・四国ではトップ、全国58校中12位、私大39校中4位の好成績を挙げました。川本隆 福岡大学法科大学院長に今回の結果を踏まえたお話を、そして合格者お二人に今の気持ちとこれからの抱負などをお聞きしました。

正直に言うとうれしさも中ぐらい、というところでしょうか。初年度入学者は5人。恵まれた環境の中、マンツーマンで指導を行ってきました。院生たちも非常に優秀で一人も欠けることなく最後まで頑張った。合格した者こそでなかった者は紙一重だったはず。それだけに彼らの努力と熱意を思うと悔しい。うれしさも中ぐらいとはそういうことです。

私は来年度の司法試験が正念場と考えています。50人近くが受験しますし、その前に課程修了試験を実施します。これに合格しないと卒業できません。卒業して初めて司法試験受験資格が与えられます。大変な難関ですが、今回の合格者3人が良き目標となり、院生たちのモチベーションを高めてくれるでしょう。特に福岡大学卒業の院生にとっては本学卒の合格者田中さんが気持ちの支えとなっているはず。

当法科大学院は、3年目を迎えます。ますます充実した教授陣・きめ細かな指導体制と熱意溢れる学生の意欲とが織りなす、熱く、だが和やかな学舎となっています。悩める人、法情報や救済を求める企業を支援でき、真に社会に役立つプロとして

の人間性豊かな法曹養成を目指しています。また、グローバルな視点での教育の一環として、中国裁判官の研修機関である中国法官学院との交流も行っています。研究者教員による法律基礎理論の徹底教育を土台に、現職やOB裁判官、検察官、経験豊かな現職弁護士等々有能な実務家教員を多数揃え、実戦に強い法曹教育を実施しています。新進気鋭の若手弁護士等がアカデミック・アドバイザーとして個人指導を中心にフォローアップを実施するなど、全側面での教育・指導体制を充実させているのも特徴です。授業料減免の特待生制度、全ての学生に行きわたる奨学金制度等々、経済的援助体制もきめ細かく用意しています。住宅・暮らしやすさ・地下鉄七隈線の開通等、生活環境も抜群です。高い志、夢を貫徹する強い意思のある諸君の入学を心待ちにしています。

合格者3人が後に続く者たちの良きモチベーションになっています。

福岡大学法科大学院長 川本 隆



全国的にも珍しい
大学運営の学校適応支援教室

しっかりと受け止めてくれる人がいる。 「ゆとりあ」は心のキャッチボールの場



本学の東門(旧正門)を入ってすぐ右手にある建物をご存知でしょうか。福岡大学臨床心理センター附設学校適応支援教室「ゆとりあ」です。不登校生徒の学校復帰支援を目的として昨年4月に開設、6月6日には初めての入級式が行われました。

「ゆとりあ」は小・中学生の○心理的・発達の要因で学校や集団適応に困難がある子ども
福岡大学臨床心理センター相談室の面接相談を受け、本教室での支援が適切と判断される子ども
を対象とし、自然体験活動(野外活動/栽培活動等)、社会体験活動(社会



(左から)中村主事、松永教室長、林臨床心理センター長

見学/買い物等、芸術活動(絵画/音楽/手芸等)、心理活動(心理劇/エンカウンターグループ等)、個別課題活動(カウンセリング/社会技能訓練等)など心理援助的な関わりとグループワークを組み合わせた活動プログラムを展開し、これらの活動により、生活の活性化、自信の回復、社会性の発達促進、人間関係の育成、情緒の安定を目指しています。

この教室は、臨床心理士を志す大学院生や教職課程の学生が参加し、子どもを支援すると同時に学生が学ぶ「場」にもなります。大学がこのような教室を運営するのは全国的にも珍しいものです。



今後は保護者同士の
ネットワークづくりや
学校との連携を

秋が深まった昨年11月のある日、活動中の「ゆとりあ」を訪ねました。建物の中は子どもたちの絵画作品などが飾られてとても温かい雰囲気。教室から子どもたちと学生の元気な声が聞こえてきます。自然体験活動の準備をする時間。一人の学生が教壇に立ち、数人の学生が子どもたちをサポートしています。林幹男臨床心理センター長の言葉を思い出しました。「一人ひとりの個性に合った指導を、しかもしっかりと気持ちを受け止めながら行うことが大切です。いかなれば心のキャッチボールです。その体験を通して子どもたちは自信を付けていく。自分の居場所を見つけていく。子どもたちの中には「ゆとりあ」から巣立ち昨年9月から学校に戻った子もいます。今後は「もっとスペースを広げ、入室希望に応えたい」と松永邦裕教室長。現在の定員は10人。開設の知らせを告知するとすぐに定員が埋まってしまう。また課題については「親のサポートも大事。保護者同士のネットワークづくりや学校との連携をさらに深めることです」と中村順一主事が答えられました。楽しい雰囲気の中、授業は続いています。「わかった?」という学生の声に「はい」と子どもたちの元気な声が答えました。

平成18年

新司法試験合格者の声

「我慢」という意識を持っている
ようでは、合格はおぼつきません。



田中隆一さん(福岡大学法学部卒)

ずっと独学だったため、法科大学院に入った直後はレベルについていけず大変苦労しました。そんな私を励ましてくれたのは仲間たちです。彼らがいなければ今の私がなかったと思います。それだけに全員で合格できなかったのが悔しくて…。後輩たちにアドバイスをするのであれば、この道を選ぶ前にリスクをじっくり考えなさいということでしょう。合格すればいいですが、失敗すれば失うものは大きい。それでもやると決めたなら、すべてをなげうつ覚悟を持つこと。「我慢」という意識を持っているようでは、合格はおぼつきません。四六時中勉強するのが当たり前というレベルにまでいかなければ。後輩諸君、頑張ってください。

目標・意味のイメージがリアルであるほど
高い動機付け、勇気付けになります。



山本哲朗さん

何より仲間たちに感謝しています。本当はこの場に全員でいたかった…。それから私をここまで磨いてくれた福岡大学法科大学院という「場」と教職員の方々という「人」にも深く感謝しています。本当に九州ナンバー1の環境でした。医学部の先生から医の倫理まで講義していただけたらなんて、総合大学の福岡大学ならではの。合格を勝ちとるまでには、必ずしも時期があります。私がそこから抜け出せたのは仲間たちの存在と、それから目標・意味をリアルに考え続けたこと。試験に合格して自分は何をしたのか、どうしたいのか。そのイメージがリアルであるほど高い動機付け、勇気付けになるのです。

3年ぶりに自修寮寮祭が開催される

昨年9月30日、『PASSION』をテーマに「第47回自修寮寮祭」が開催されました。寮の縮小に伴い休止していましたが、寮生自らが立ち上がり3年ぶりの開催となりました。

寮生46人全員にとっては初めての経験でしたが、古い資料を掘り起こしながら寮生一丸となって準備を進めてきたものです。

当日は、多くのお客さまがバザーで軽食を取りながら、バンド演奏やカラオケ、ミスターレディーコンテスト、ピンゴ大会などで大いに楽しみ、大成功の寮祭となりました。



3大学合同シンポジウムが開催される

昨年11月4日、本学A棟A401教室で本学、福岡歯科大学、中村学園大学の地下鉄七隈線沿線3大学合同によるシンポジウムが『禁煙宣言』をテーマに、一般市民を対象に開催されました。

第1部は福岡大学病院循環器科の松永 彰助教授による講演「喫煙と心臓病」のほか、福岡歯科大学、中村学園大学の教授による講演が行われ、第2部では、漫画家の高 信太郎氏が「絶煙のすすめ」をテーマに特別講演を行い、自ら絶煙するまでに至った体験談を面白おかしく披露し、会場は笑いの渦に巻き込まれていました。

第3部のアンサーアナライズセッションでは、タバコや喫煙に関するさまざまな質問に来場者自らが机上の回答ボタンにより答え、パネリストの解説に真剣に耳を傾けていました。



附属看護専門学校で最後の戴帽式が挙行される

昨年11月10日、有朋会館大ホールで附属看護専門学校の第32回戴帽式が挙行されました。1年次生47人が中嶋副校長から看護帽を戴き、谷福岡大学病院看護部長から聖火を継承、看護の精神を胸に新たな一歩を踏み出しました。これから学生たちは、各看護学の講義と福岡大学病院等での臨地実習を重ねます。なお、附属看護専門学校での戴帽式は今回が最後となりました。



人文学部菅恵さんが 司馬遼太郎フェロシップに選ばれる

昨年11月27日に行われた第10回司馬遼太郎賞の選考会において、司馬氏の作品群にインスピレーションを得た調査、研究などを支援する「第10回司馬遼太郎フェロシップ」に、本学人文学部歴史学科4年次生の菅恵さんの「幕末福岡藩に生きた人々～新時代に乗り遅れたある藩の姿」が選ばれました。贈賞式は2月12日、NHK大阪ホールで行われる予定です。おめでとうございます。



工学部河村雅人さんが (社)電子情報通信学会の「学生会講演奨励賞」を受賞

昨年9月27日、宮崎大学で行われた平成18年度(社)電子情報通信学会九州支部「第14回学生会講演会」において、本学工学部電子情報工学科4年次生の河村雅人さんの論文「人間のロボットへの指示動作実現のための視覚処理」が特に優秀と認められ、支部長表彰「学生会講演奨励賞」を受賞しました。おめでとうございます。



商学部第二部が「社会人コース」履修生を募集

本学商学部第二部商学科では、会社員、中間管理職、経営者層を対象にビジネスマネジメントを体系的に学べる「社会人コース」を開設しています。

平成19年度履修生募集の詳細については、商学部事務室にお問い合わせください。

平成18年度大学院秋季学位記授与式を挙行政

昨年10月3日、平成18年度大学院秋季学位記授与式が挙行政され、博士課程後期修了による学位取得者1人、論文提出による学位取得者12人に博士の学位が、また、博士課程前期修了者2人に修士の学位が授与されました。皆さん、おめでとうございます。



花嶋名誉教授が 北九州市環境賞特別功労賞を受賞

昨年11月18日、北九州市が世界の環境都市を目指す取り組みの一つとして、環境保全分野で優れた功績のあった個人や団体を顕彰する「第4回北九州市環境賞」の授賞式が行われ、廃棄物工学の草分け的存在として知られる花嶋正孝本学名誉教授(現(財)福岡県環境保全公社リサイクル総合研究センター長)が特別功労賞を受賞されました。おめでとうございます。

「花嶋環境基金」の奨学金を授与

花嶋正孝名誉教授(工学部土木工学科、現社会デザイン工学科)の在職中研究資金などを基に設立された「花嶋環境基金」の平成18年度奨学生、大町正和さん(社会デザイン工学科4年次生)、坂口浩昭さん、武田 都さん、吉丸俊和さん(いずれも大学院工学研究科建設工学専攻1年次生)、ハンダヤニ リリー シスカさん(研究生)の5人に対し、昨年10月4日、大和竹史工学部長から奨学金の授与が行われました。荣誉に輝いた皆さんの一層の勉勵に期待します。



(手前左から)大町さん、坂口さん、武田さん、吉丸さん
(右上)ハンダヤニさん

福岡大学病院で大掛かりな防災訓練を実施

昨年11月11日、福岡大学病院の主催により大掛かりな総合防災訓練を実施しました。福岡大学病院が福岡県より災害拠点病院としての指定を受けており、災害発生時における各機関との連絡協調体制の確立、防災技術向上および院内各部門における活動内容の確認を目的としたものです。

本学A棟AB01教室において不審者が持ち込んだ品物が異常発火し爆発事故が発生、サリンが飛散したとの想定で、福岡市消防局各署BC対応隊、福岡県警第一機動隊NBC対策隊による救護活動、福岡大学病院への患者搬送が行われました。病院内では搬送された患者の受け入れおよび医療活動が円滑に行われ、受け入れが困難となった場合を想定し、他医療機関へのヘリコプターおよび救急車による転院搬送訓練も行われました。



本学野球部の川頭秀人さんが ドラフトで指名される

昨年11月21日に開催されたプロ野球大学・社会人ドラフト会議において、本学野球部の川頭秀人さん(スポーツ科学部4年次生)が福岡ソフトバンクホークスに指名されました。川頭さんの最速147キロを誇る快速右腕の将来性が高く評価されたものです。川頭さん本人もホークス入りを希望していたということもあり、会見場は二重の喜びに包まれました。

一日も早い一軍での活躍を期待しています。



(左から)中原学生部長、川頭さん、樋口野球部監督

福岡大学病院が 九州初の移植手術を相次いで実施

昨年10月28日、臓器移植法に基づく49例目の脳死判定を受けた男性からの提供を受け、福岡大学病院で九州では初めての脳死肺移植が実施され、無事に終了しました。一昨年5月31日に脳死肺移植の実施施設に認定されてから初めてのものでした。

また、11月3日にはインスリン依存糖尿病患者に対し、心停止患者からの膵島移植を行いました。膵島移植は膵島のみを取り出して、局所麻酔下で肝臓内の血管である門脈にカテーテルを挿入し、そこから点滴で注入する細胞移植です。開腹手術ではないので、身体に対する負担が軽い治療法です。膵島移植施設は各地域に6施設が認定されており、九州・沖縄地方では福岡大学病院が唯一の膵島移植を実施できる施設となっています。

脳死肺移植は臓器移植法制定以来全国で29例目、一方、心停止膵島移植は全国で14例目となります。今回の肺移植手術および膵島移植手術の成功により、今後、九州地域内での普及が進むものと期待しています。

さらに、11月29日に4歳児に対して九州で初めてとなる生体肺移植手術が実施され、無事終了しました。4歳児への生体肺移植は、わが国ならびに世界的にも最年少に相当するケースとなります。

移植手術には高度な技術と病院全体のチームワークが不可欠とされており、脳死肺移植手術および膵島移植手術の成功は、福岡大学病院全体の高い医療技術が証明されたものといえるでしょう。

福岡県中小企業振興センターと 産学官連携に関する包括協定を締結

昨年11月16日、福岡県中小企業振興センタービルで、本学は財団法人福岡県中小企業振興センターと産学官連携に関する包括協定の調印式を行いました。

今回の協定は、本学と財団法人福岡県中小企業振興センター相互の資源を有効活用し、連携することを通じて、産学官連携の推進と福岡県内の地域産業の発展に寄与することを目的にしたものです。推進していく活動として、(1)産学官連携の推進を目的に実施する交流への連携・協力(2)県内中小企業の技術の高度化、人材育成への支援・協力(3)産学官連携の推進に関する相互の広報活動への協力等を予定しています。



脇田理学部教授が日本分析化学会賞を受賞

脇田久伸理学部教授が2006年度日本分析化学会賞を受賞されました。その研究業績「新規X線分析装置の開発とこれを用いる溶存金属錯イオンの局所構造と電子状態の研究」が特に優秀であると認められ、日本分析化学会表彰の最高賞である同賞が贈られました。岡山県以西の私立大学研究者では初の受賞です。おめでとうございます。

くるくるスポット Spot

キャンパスのユニークスポットを、
あまり知られていない
エピソードを交えて紹介。
これを読んだら行きたくなる!



レリーフ「絆」

有朋会館の日本間の北側にあるレリーフは、昭和54年、学術文化部美術部によってつくられました。テーマは「絆」。友人、先輩、OB、そして先生方や職員など福岡大学に連なる人々の「絆」、そして全世界の人類の「絆」を表現しているようにも感じられます。



プラザ50

文系センター棟(高層棟)1階の「プラザ50」は、学生および教職員等の通路としてだけでなく、通路両サイドの空間は情報交換の場や集いの場として利用できます。施設内は禁煙で、飲食および掲示も禁止されています。
使用時間 7:00~22:00(※日・祝日を除く)



オリオンホール

星座の名前にちなんだ、
課外活動の拠点

商学部第二部の課外活動の拠点となる部室棟で、高宮校舎から七隈校舎への移転に併せて1999年2月に竣工しました。地上3階建てで、部室(32室)、ミーティングルーム(3室)、男女個別のシャワールーム、スタジオ、暗室、ミキサー室などを完備しており、スポーツ・文化サークル部員の活動と語らいの場として活用されています。

なぜオリオン?

オリオンホールという名称は、オリオン座のように厳しい冬でもたくましく、そして美しく輝き続けられるようにとの願いを込めて当時の第二部学生会が名付けました。ちなみに星座の名前がついている施設は福岡大学では、ここだけです。



健康管理センター

知つてるところ、知らないところ、広大なキャンパスは宝の山。君も福大生ならすべてを体験しよう。

行く・見る・歩く・利用する
福大キャンパス「健康管理センターとオリオンホール」

学生の健康診断から、
一般内科診療まで幅広くサポート

健康管理センターでは、全学生を対象に毎年4月から6月にかけて定期健康診断を実施するほか、臨時検診も行っています。また、健康相談をはじめ肥満対策、診療、応急処置、投薬、血圧測定なども行い、病気の予防や早期発見に成果をあげています。

■健康相談・応急処置等
平日 8:50 ~ 16:50
土曜日 8:50 ~ 12:35
※商学部第二部の授業時間内は、商学部事務室(A棟地下1階)で対応しています。

在学生はもちろん一般の方の外来も受け付ける「診療所」も開設しています。これは本学の地域貢献の一環として2001年から開設したもので、一般内科の診療を行っています。

■診療時間
月~金曜日 9:00 ~ 16:00
(12:00 ~ 13:00 は休診)
土曜日 9:00 ~ 13:00

禁煙相談窓口を設け、学生・教職員における禁煙支援を実施しています。



FD No.16 Winter2007

編集・発行
福岡大学広報委員会
〒814-0180
福岡市城南区七隈八丁目19-1
TEL092-871-6631(代)
http://www.fukuoka-u.ac.jp/
印刷: 凸版印刷株式会社



▲立川笑志さん取材するFD編集スタッフ

編集後記

あけましておめでとございませう。昔前までは正月のテレビといえば、寄席番組が主流で、正月らしさを感じたものですが、最近ではめっきりと少なくなつたようで誠に残念に思います。

本号にご登場いただいた立川笑志氏は、自ら古典芸能の世界に飛び込み、その濃厚な表情からは想像もできないほど実に厳しい修行を重ね、日々精進されていきました。立川氏を取材するために上京する際、機内で聞いたのが、偶然にも氏が好きな演目に挙げられた「井戸の茶碗」でした。「一口に落語と言ってもその奥は深く、同じ演目でもその演者(断家)によつて楽しみ方が変わってくるような気がします。その意味においても、一日も早く、真打ちとなった笑志師匠の「井戸の茶碗」を聞いてみたいものです。本年の干支は亥。がむしゃらに猪突猛進することのないよう、しっかりと状況判断をしつつ邁進したいと思ひます。本年が昨年にもまして佳き年となりませう。

FDは今春4月号から委託業者が替わることになりました。本号まで発行のサポートをしていただいた凸版印刷株式会社の関係者の皆さまに誌面を借りてお礼を申し上げます。

学園通信(FD)に対するご感想をお寄せください。



「住まいの情報について」
安心・快適な
住まいをサポートします!
住まいの紹介のうち学生寮・指定寮については、これまでどおり学生課で相談を受け付けますが、下宿・アパート等の紹介については(株)学生情報センター(ナジック)に委託しています。ナジックでは専門のノウハウを活かし厳正に審査した、より安心・快適な物件をきめ細やかに紹介いたします。

生活お役立ち
学生情報